

テーマ 「実践的・体験的な学習につなげる言語活動の充実」

1. テーマ設定の理由

平成24年度に実施される、中学校新学習指導要領 第8節 技術・家庭の目標は、「生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」と新たに定められた。また、技術分野の目標は、「ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。」と改訂され、家庭分野では、「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。」と改訂された。つまり、技術・家庭科というのは、生活技術、家庭生活について学習をする教科であり、学習した知識や技術を実際の生活で生かし、生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てるものである。

しかし、OECD（経済協力開発機構）による生徒の学習到達度調査をはじめ、各種の学力調査によると、思考力・判断力・表現力等の力を見る問題の正答率が低いという現状が明らかになってきた。この結果から、単なる知識の詰め込みではなく、知識を、実生活の中での問題解決に活用することができるような学びが必要ということがわかる。そこで、観察・実験・レポートの作成・論述といった、習得した知識・技能を活用する学習活動に注目した。

基礎的・基本的な知識・技能を習得しつつ、観察・実験を行い、その結果をもとにレポートを作成する。文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述するといった知識・技能を活用する学習活動を行い、それを総合的な学習の時間における教科等を横断した課題解決的な学習や、自らのより豊かな生活にむけての探究活動へと発展させることが必要であると考えた。この「習得」「活用」「探究」という学習活動が、まさに新学習指導要領が目指す「生きる力をはぐくむ」ものである。

指導に当たっては、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、日常生活に必要とされる対話・記録・要約・説明・感想などの言語活動を行う能力が、確実に身に付けることができるように、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実することを重視していきたい。こうした観点から、技術・家庭科の研究テーマを「実践的・体験的な学習につなげる言語活動の充実」とした。

2. 本年度の研究について

技術・家庭科とは、生徒が自らの生活を振り返りながら、実践的・体験的な学習を通して生活に必要な知識と技術を学ぶ理論と実践の教科である。そのような中で、生きる力をはぐくむには、生徒一人ひとりが自立した生活をおくることができるよう支援しなければならない。技術・家庭科の学びにおいては、新学習指導要領の目標をふまえ、基礎・基本の知識と技術の習得と、授業での活用が重要である。最終目標とするものは、自らの生活の問題を見つけ、その問題の解決にむけて探究していくことである。また、技術・家庭科のみならず、各教科で得られた知識・技能を、実際の生活の場で活用できるように、総合的な学習などを通して、その場・その時に応じた適切な知識・技能の組み立てを行うことができる力の育成が重要である。

本教科で学習する内容は、普段の生活に直結する内容のものが多く、本教科で学んだ知識や技術を普段の生活において実際に役立てられるようにすることが大切である。そのために本教科では授業の中で「面白い」「やってみたい」という授業内容に関する興味・関心を生徒に持たせることが不可欠であるとともに

に、生徒が授業で学習したことが、どのように次の段階につながっていくのかを考えさせ、生徒自身が目標に向かって努力できる力をはぐくむといった授業の中での学びの豊かさも必要であると考え。そのために一時間の授業や、その単元での目標を生徒に明確に提示し、そこにたどり着くまでの基礎的・基本的な知識や技術を定着させる必要がある。しかし、授業の中で一度でも課題解決の過程とその充実感を体験していれば、自分なりの工夫をして実践ができるようになるものと考え。また、本教科の特性である実習や製作活動等でのグループ活動において、子どもどうしが互いに関わることで多様なものの見方や考え方を学び合い、ともに高め合い、さらに課題を追究し発信する場を設定できるような実践的・体験的な授業の構築が必要であると考え。生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動を行い、言語の能力を高める必要がある。なぜなら、言語の能力は、生徒が他者や社会とかかわる上でも必要な力であるからである。

日常生活に必要なとされる対話・記録・要約・説明・感想などの言語活動を行う能力が、確実に身に付けることができるように、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、「衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり説明したりするなどの言語活動」の充実を図りたい。

3. 成果と課題

本年度から「実践的・体験的な学習につなげる言語活動の充実」というテーマで研究を進めてきた。技術・家庭科の目標である、進んで生活を工夫し想像する能力と実践的な態度を育てるために、グループでの言語活動を意識して学習を進めてきた。

生活に必要な基礎的・基本的な知識および技術の習得をするとともに、学習を進めていく中で抱く疑問や課題について、グループでの言語活動を通して、疑問や課題を周囲に的確に伝え、他者の意見を聴き、互いに思考を高め合う中で、生徒自身の思考力・判断力・表現力等がより高度に培われるものと考え。

技術科では今回、コンピュータでカーンを制御する題材を扱った。アルゴリズム作成、プログラム作成の実習を通して、制御するのに必要な論理的思考力、判断力、そしてフローチャートなどで表す表現力等の力を培うことができたと考え。また、制御になされている工夫（条件分岐処理、繰り返し処理）を体験させるとともに、その工夫を班内で意見交換する中で、班員の意見に耳を傾け自らの考えと比較することで、生徒の学習理解をより深いものにしたのではないと思われる。生徒が、普段あまり意識していない身の回りの多くの機器における制御について、深く考えるよい機会となった。あらためて技術のすばらしさ、また先人の経験による知恵に感動していた。

家庭科では、商品の選択と購入において購入方法による情報の違いを考え、既製服購入時に重視する項目、しない項目を意見交換させた。その項目はほとんど同じだったので十分な意見交換はできなかったものの、自ら衣服を手入れしていないことが浮き彫りになり、課題が明確になった。

次に、衣服の手入れにおいて、品質表示から確認すべきことは何かを考えさせることで、取り扱い絵表示や組成表示を具体的に活用しようとする態度を養う機会になったと思われる。

また、生徒が自分で既製服を購入する時の確認チェックカードをつくることで手入れや管理に必要な情報をどのように確認し、意思決定に反映させていくかを意識付けることができたと考え。

このように、学び合い、高め合う場の設定については、授業にグループでの言語活動を取り入れることにより、各自の日常生活で直面し体得した知識や技能の違いを発信する機会を与えたり、互いのかかわりの中で自ずと教え合い、学び合う機会を得ることにつながっていると考え。学校での一つの実習、実験を通じて、そこから派生する様々な事柄に興味・関心を持ち、課題を見つけ、それを解決していく態度を身につけさせることが、学習活動の大きな目標の一つであると考え。

一方課題として、題材の設定や与えた問題が簡単すぎたり、また逆に難しすぎると、生徒どうしの意見交換が不十分となり、互いの多様なものの見方や考え方を発信し学び合うような場に発展するのがむずかしい事がある。個人で考えるには少し難しく、かつ多様な考え方を引きだせるような自らの生活と関連し

ている題材の設定が重要となる。その題材設定や問題の難易度は、グループでの活動を活発にさせるかどうかにもかかわってくるので、慎重に考えなければならない。技術・家庭科とは生徒自身が自らの生活をふり返りながら実践的、体験的な学習を通して必要な知識と技術を学ぶ理論と実践の教科であることを念頭に置いて、題材の厳選をすすめていきたい。

参考文献・参考資料

- 各教科における「言語活動の充実」とは何か 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校編 三省堂（2009）
- 各教科等における言語活動の充実 高木展朗編集（2008）
- 中学校新学習指導要領の展開 技術・家庭科 技術分野 安藤茂樹編著 明治図書（2008）
- 中学校新学習指導要領の展開 技術・家庭科 家庭分野 佐藤文子編著 明治図書（2009）
- フィンランドメソッド 書き込み式練習ドリル 伊藤敏雄 日本文芸社（2008）
- すべての子どもがわかる授業づくり－教室でICTを使おう－ 高橋純／堀田龍也 編著 高陵社（2009）

① 題材 コンピュータで制御をしよう

② 題材について

本教科における授業内容は、生徒たちの家庭生活に直結する内容のものが多く、授業で学んだことが実生活の場で役立つなければならない。そのため、授業の中で「やれば出来る」という達成感を生徒たちに持たせることが大切であり、そのことが、興味・関心から創意・工夫へとつながると思われる。

本教科の学習内容を活用する場は実生活にある。そのため、授業では基礎的・基本的な知識および技術を習得することにより、生徒たちが自らの実生活で考え、工夫し、習得した内容を自ら活用できる能力を育てることにつながると思われる。そして最終目標とし、自らの生活の問題について、その問題解決にむけて探究をしていく力を育みたい。

題材として今回、コンピュータを用いた制御について取り上げた。制御について、生徒は普段、意識をしたことがないかも知れないが、エアコンの温度・湿度調整、電気炊飯器におけるごはんの炊き具合等、私たちの生活で多く利用されており、生活に必要不可欠なものである。そして、その制御プログラムは、人間が自らの経験や知識技能を処理手順として整理し、プログラムとしてコンピュータに記憶させているものである。本学習を通して、生徒に私たちの身近な生活の中に、コンピュータを用いた制御が多く利用されていることを理解させたい。また、プログラム作成実習を通して、各種機器を目的に応じたはたらきをさせるプログラムの必要性と、すばらしさを体験させたい。学習における班活動の中で、生徒たちはそれぞれが考え、気づいたことを他者に伝えるとともに、周囲の意見にも耳を傾け、自らの考えと照らし合わせることで新たな発見ができるものと思われる。そのため、実習等の結果を整理し、考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりする言語活動を充実させたい。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の中にコンピュータを用いた計測・制御が利用されていることを理解する。 計測・制御に用いられるコンピュータのはたらきは、人間が作成するプログラムにより決められていることを理解する。 順次、反復、分岐などの基本的なアルゴリズムを理解する。 流れ図や文章で、問題解決のアルゴリズムを説明することができる。 プログラムを作成することができる。 計測・制御の技術と人や生活とのかかわりについて考えることができる。
評価規準	
生活や技術への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで調べ、課題について確実に身につけようとしている。 プログラム作成に関心を持って取り組もうとしている。 問題解決のアルゴリズムを、班内で積極的に意見交換をし、積極的に工夫しようとしている。
生活を工夫し創造する力	<ul style="list-style-type: none"> 制御機器の動作の問題点からプログラムの流れ、命令の修正をすることができる。 あったらよいと思う計測・制御について、アイデアやしくみの概略を示すことができる。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のアルゴリズムを流れ図や文章で表すことができる。 問題解決のアルゴリズムに沿ったプログラムを作成することができる。
生活や技能についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるコンピュータ制御の機器（炊飯器、エアコン等）の回りの状況を知る機能、判断する機能、仕事をする機能について、具体的に仕事内容を説明することができる。 プログラム言語の機能や、作成方法について理解している。

④ 学習計画（単元構成表） 10時間（◎は本時で、4時間目）

学習過程	学習の中心	言語活動の視点	観 点
計測・制御の 基本 (1時間)	コンピュータ制御機器の共通する機能を知る。 センサのはたらきを理解する。 コンピュータ制御におけるプログラムのはたらきを知る。		【関】 【創】 【知】
プログラムの 基本 (2時間)	仕事の流れを言葉や図に表す。 プログラムを作る。	・仕事の流れを一つ一つの段階に分解させ、言葉や図で説明させる。 ・問題解決の効率的なアルゴリズムを、班内で意見交換をさせる。	【関】 【創】 【技】
コンピュータによる計測・制御 (5時間)	◎カートロボットを制御するプログラムを作成する。 作成したプログラムでカートロボットを制御する。	・課題を与え、解決に向けてプログラムを作成させる。 ・問題解決の効率的なアルゴリズムを、班内で意見交換をさせる。 ・制御機器の動作の問題点からプログラムの流れ、命令の修正をすることができる。	【関】 【創】 【技】
わたしたちの生活と計測・制御 (2時間)	コンピュータを用いることによって計測・制御がどのように変わってきたかを知る。		【関】 【知】

⑤ 本時の目標

- ・カートロボットを制御するプログラムを学習する。
- ・カートロボットを制御するプログラムについて、班員同士で話し合い、意見交換をしながら無駄のないプログラムを作成する。

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教師の指導	備 考
本時の学習内容を知る。	本時の目標を知らせ、関心・意欲を持たせる。	
「カートを正方形に走らせる」ために必要なアルゴリズムを考える。	カートを正方形に走らせるのに必要な情報は何かを考えさせる。	・デジタルコンテンツ ・ワークシート ・カートロボット ・制御用PC ・ホワイトボード ・実物投影機
アルゴリズムに従ってプログラム作成をする。	プリントにアルゴリズムをかかせる。 プログラムの作成方法を確認する。	
制御機器の動作の問題点からプログラムの流れ、命令後の修正をする。	できあがったプログラムの動作を、実験を通して確認させる。	
反復命令を用いて、プログラムを改良する。	プログラムの冗長性はどこかを指摘する。 無駄のないプログラムをつくる方法を考えさせる。	
本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	問題解決の方法は一つだけではないことを確認する。 効率のよいプログラミングを考えさせる。	

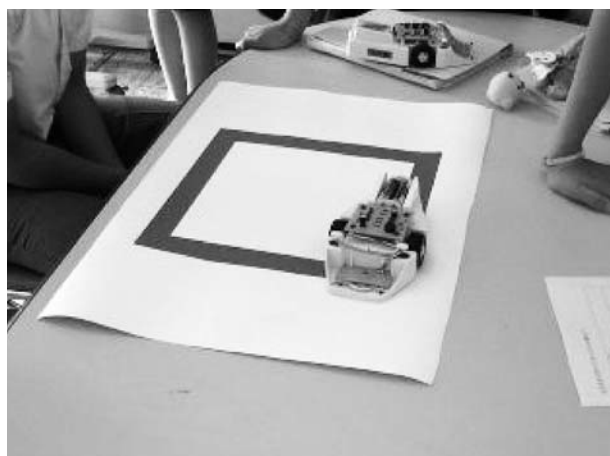
⑦ 結果と考察

今回、技術科では制御について取り上げた。先項の「題材について」でも述べたが、制御は我々の実生活において、なくてはならないものである。生徒は普段、制御を意識したことがないかも知れないが、多くの機器に制御の技術が生かされており、私たちの生活をより豊かにしてくれている。制御のプログラムを組む前に、させたい仕事を一つひとつの手順に分解し、問題解決のアルゴリズムを作成する実習を行った。一つひとつの手順に分解し、アルゴリズムを考えていく中で、制御の難しさ、楽しさに気がついたようである。また、自分が組んだプログラムで、カートが動くのを見て、感動していた。モータを回転させる時間設定を少し変えるだけで、カートはコースを外れるので、カートがコース上を走るように、一生懸命何度もプログラムを微調整する生徒の姿が印象的であった。

今回、問題解決において、1人ではなくペア、あるいは4人のグループで活動をした。1人ではなく、複数で考え、意見交換をする中で、生徒たちはそれぞれが考え、気づいたことを他者に伝えるとともに、周囲の意見にも耳を傾け、自らの考えと照らし合わせることで新たな発見をしていた。

グループで伝えあう、考えあうという言語活動を通して、生徒の思考力・判断力・表現力等が向上したと思われる。また学習を終えて、自らの生活において、今まであまり意識をしていなかった制御についての興味・関心が高まり、自分たちの生活をよりよくしたいという感想が生徒から出た事を嬉しく思う。

今後も生徒が、自らの生活に目を向け、より豊かな生活を目指すため、問題解決に向けてお互いが活発に意見交換し、学びあいができるような言語活動を充実していきたい。





生徒の感想 (抜粋)

「キューカート」の実習における感想を書きなさい。

どういったタイミングで曲がったりするかが何秒ぐらい前進するかそれを考えるのが難しく、なかなか思うように機械が進んだり、曲がってくれたりしないのでそれをどうやって制御するかでずっと班員と話し合いました。僕はこの授業が一番難しいと思いました。

「キューカート」の実習における感想を書きなさい。

コンピューターの所から、直接データをキューカートに伝達できるのがすごかった。画面から伝えられるのが、すごかった。このキューカートと思いどおりに動かせるように、データを組むのが大変だった。0.1秒でも、まがる時間が変わるだけで、まがる角度が全然ちがってました。

「キューカート」の実習における感想を書きなさい。

パソコンでプログラムをいれてそのプログラムをキューカートに記憶させるのが、すごいなと思った。自分が考えたプログラムをキューカートが的確に動かすのが不思議だった。何cm、ど計算しての結果、道順にちゃんと動くのを見たのが、面白かった。うまく道順に行かない時、なんでだろう?と、思っ、取り直さなければならなかった。

「キューカート」の実習における感想を書きなさい。

キューカートに動きをプログラムさせるとき、パソコンから送るのが、すごかった。光センサーでできるのがすごい。リールの違いで、カートの動きが違ったり、うまく動かせることができて、おもしろかった。

制御の学習を終えての感想を書きなさい。

正直に伝わるために、大さや小さかいとこまで言わないと、いけないから、大変だったけど、工夫して伝わるように考えました。うまく制御できるような命令をだすには、制御の仕方がいろいろ分かって良かった。人間も制御して行くので、僕も思った。これからの生活に生かしていきたい。

制御の学習を終えての感想を書きなさい。

制御は、カートロボットを自分の思った通りに動かしたり、決められた範囲を動かしたり、難しくもあつけど、とても楽しかった。水泳が、またプログラムはほんの一部で、プログラムの仕事をしている人はすごいと思う。プログラムの他にも、簡単なプログラムをいくつか合わせてあげて、複雑なプログラムができて、いろいろな事を知ることができると思う。

制御の学習を終えての感想を書きなさい。

はじめは、プログラムを組むのは大変だから、おもしろいと思っ、いたけど、や、といううちに、いろいろなプログラムのプログラムについて考えるのがおもしろいと思っ、ようになった。身近なものに、このようなプログラムが成り立っているものがたくさんあるので、このようなものがどんなプログラムが組まれてるのか考えてみたい。

制御の学習を終えての感想を書きなさい。

キューカートがロボットとして、機械をコントロールしてあげて、めっちゃおもしろかった。制御の授業では、自分たちの生活している世界には制御されていることがいっぱいあることがわかった。制御の前とは比べられないくらい自然に受け入れられた。おもしろいことばかりだったけど、パソコンで使ったり、班活動したりしてとても楽しい授業だった。

制御の学習を終えての感想を書きなさい。

大変ななあって、こんな考えられるって今で苦労してましたろうなあって思っ、たし、スゲー!とも思っ、た。これから先、プログラムに関わるともしいかな、関わらないかな、かわからないけど、覚えておこうと思っ、た。制御の学習をしたのなら、自分も制御することもできるのかな? (笑)

制御の学習を終えての感想を書きなさい。

制御をきいたときは絶対難しい授業になるかなあ〜と思っ、ていたけど、身のまわりにはたくさんあつて、びっくりした。イラストを書くのも、キューカートを制御するのも、最初はとてつもなく難しかった。でも、それとあつ、た別のものをあつ、たら、案外簡単にできた。今日の授業の内容はしっかりと覚えておきたい。

① 題材 B 私たちの消費生活と環境

② 題材について

多様な商品が手軽に入手できる現在、購入方法や支払い方法が複雑、多様化している。なかでも通信販売や情報サービスにおいては、トラブルに巻き込まれる危険性があり、中学生も消費者の一人として適切に商品を選択、購入し活用する力を育むことが大切である。

そこで、本学習を通して自分や家族の生活のしかたをふり返りながら消費行動を考えたり、消費者としての知識や自覚ある行動について学び、自分の実生活に生かす実践的な態度を育みたい。

事前にアンケートをとり、自分達の消費行動の現状や問題点に気づかせ、計画的な消費行動を促し、商品選択時の表示確認の意義を知るとともに、商品を比較検討し総合的に判断できる力を身につけさせたい。

さらに、自分の消費生活が環境に影響を及ぼすことに気づき、身の回りの商品の使用や廃棄のしかたについても考えさせたい。

③ 学習目標と評価規準

学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の消費行動に関心をもち、身近な消費行動から課題を見いだす。 ・商品（既製服）の選択方法について考えさせる。 ・生活情報の表示やマークがあることに気づかせ、商品の選択に表示が役立つことを理解させる。 ・商品購入時に、品質表示から情報をよみとり、比較・検討する態度を身につけさせる。 ・さまざまな販売方法や支払い方法の特徴、利点と問題点を考え理解させる。 ・契約について理解し、中学生の身近に起きているトラブルを知る。 ・環境や資源に配慮した生活への関心を高めさせる。
評価規準	
生活や技術への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の消費行動に関心をもち、身近な消費行動から課題を探ることができる。 ・環境や資源に配慮した生活への関心をもつことができる。
生活を工夫し創造する力	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の選択時の判断基準や意思決定について考えることができる。 ・商品購入時の表示から情報をよみとり、比較・検討する習慣を身につけようとしている。
生活の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から情報分析し、まとめることができる。 ・環境問題を考え、実生活に結びつけて身近なエコ活動を実践をしようとしている。
生活や技能についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生活情報の表示やマークの意味を理解している。 ・さまざまな販売方法や支払い方法の特徴を理解し、利点と問題点を考えることができる。 ・契約について理解している。 ・中学生の身近に起きているトラブルを理解している。

④ 学習計画（単元構成表）8時間（◎は本時で、6時間目）

学習過程	学習の中心	言語活動の視点	観 点
ペンケースの値段 (1時間)	ペンケースの値段から、身近な消費行動を考えさせる。	ペンケースの値段を調べ、クラスで表にまとめ、整理し、身近な消費行動を考えさせる。	【関】 【技】

私たちの消費行動 (1時間)	消費行動(小遣い、自分で買うもの、方法など)アンケート結果からよみとり、お金の使い方を考える。	私たちの消費行動(小遣い、自分で買うもの、方法等)を事前アンケート結果から情報分析させる。また問題点を考え、班で意見交換させる。	【関】 【技】
プレゼントの値段 (1時間)	商品を選択するときに情報を集め、意思決定をする。消費行動が社会と繋がっている。ものの値段とその価値を考える。		【関】 【知】
契約とは (2時間)	契約について知る。市消費生活相談員から事例を伺い、悪質な商法のロールプレイングをする。	携帯での不当請求のロールプレイングを行い、陥りやすい危険を考え、意見交換させる。	【関】 【知】 【創】
◎商品の選択と購入 (1時間)	商品を選ぶとき重視する項目を考える。また、購入方法による情報の違いを考える。	購入時における意思決定のされ方を分析し、意見交換させる。 また、販売方法による情報の違いを分析させる。	【関】 【知】 【創】
支払い方法 (1時間)	さまざまな支払い方法を知り、クレジットカードの利点と問題点を考える。	クレジットカードも問題点を知り、持つ派・持たない派で論理的に考える。	【関】 【知】
消費生活と環境 (1時間)	循環型社会について考える。環境を考えた小物製作に繋げる。	環境問題を考えさせ、自らの生活を振り返り、気づいたことをまとめさせる。	【関】 【技】

⑤ 本時の目標

- ・既製服購入時に重視する項目は何か考えさせる。
- ・販売方法による情報の違いを比較させ、購入時にそれらの項目の確認方法を考えさせる。
- ・既製服の品質表示の意味を知り、具体的に活用する態度を養う。

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教師の指導	備 考
既製服購入時、重視する項目は何か考え、意見を出し合う。	既製服購入時に重視する項目が12項目でなければ補足する。(生産国、仕立ての良さ、素材(繊維)、手入れの方法等が予想される。)	デジタルコンテンツ
各自12項目からTシャツ購入時に重視する項目のランキングをする。 班でそのランキングの意見交換する。	Tシャツ(私服用)各自に優先順位をつけさせる。 Tシャツ(運動用)では優先順位がどうか考えさせる。班で話し合い、用途によって優先順位が違うことを確認させる。	ワークシート
購入時に重視する項目を確認する方法を考える。	販売方法によって確認できる項目が違うことに気づかせる。	実物 Tシャツ カタログ
あまり重視しない項目に着目する。	重視しなかった項目が購入後どう関わってくるか、意見交換させる。	素材(繊維):組成表示、手入れの方法:取り扱い絵表示等
失敗をしないための購入時確認チェックカードを作成し、発表する。	既製服購入時にどのようなことを確認して意思決定することが大切かをまとめ、班で考えさせる。	

⑦ 結果と考察

本時は、既製服購入時に重視する項目は何か考えさせ、販売方法による情報の違いを比較させるなかで、購入時に既製服の品質表示を具体的に活用する態度を養う機会となったと思われる。

まず導入において、既製服購入時に重視する項目をきくと色・柄・デザインが最も多く、次いでサイズや値段、着心地が多かった。一方、重視しない項目は、手入れの方法が最も多く、次いで生産国、仕立ての良さであった。個人の重視する項目と班員の重視する項目がほとんど一致していたので、活発な意見交換ができなかったが、色・柄・デザインやサイズを重視していることから、自分の体系や好みに合うことが購入する判断基準となっており、その衣服の手入れや管理方法はほとんど確認されておらず、自ら衣服を手入れしていないことが浮き彫りになった。



次に、店舗販売と無店舗販売による違いから、商品を実際に手にとって見る、試着する、着心地を確認することができる店舗販売での購入が、写真や値段、わずかな標記文字で判断する通信販売（無店舗販売）での購入より商品を比較検討し、的確な判断ができると理解できていた。通信販売は、安くて便利な場合も多いが、標記されている情報から商品を確認することは、不十分であると感じたようであった。

そこで、重視されていない項目に再度着目し、既製服の品質表示から読み取ることができる情報を購入時に活かすことを考えさせ、まとめとして「既製服を買うときの確認チェックカードを作ろう。」と班で話し合わせた。「サイズや色・柄・デザインも大事だけど、手入れの方法を知っておくと服を長持ちさせられる。」「デザイン、値段はまず最初に確認して、次に素材を見て決める。」「気まぐれでなく、コーディネートもきちんと考えて買いたい。」等、手入れの方法や素材、使用目的に着目し、品質表示を活用することを意識付けることができた。

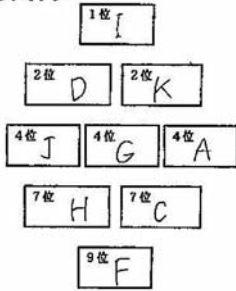


この授業を行うなかで、既製服の購入時の判断が自分の体系や好みに合っていることだけでなく、取り扱い表示等の情報を正しく読み取ることにより、その衣服を自分でどのように手入れし、大切に着るかを考えさせる衣生活への動機付けの一つになったと考える。

また、これからの衣生活分野の授業展開において、衣服の手入れとして洗濯やアイロンの実習、繊維の性質を理解するための実験等、体験的な授業を通して自ら生活の中で品質表示を活用し、実生活に活かす態度を育みたいと考える。

1. 既製品 (Tシャツ) 購入時に重視する項目ランキング

- A: ブランド (メーカー)
- B: 生地質
- C: 着心地 (動きやすさ)
- D: 着用目的
- E: 手入れの方法
- F: 素材 (繊維)
- G: 縫製
- H: サイズ
- I: 色・柄・デザイン
- J: 流行
- K: コーディネート (他の服との組み合わせ)
- L: 仕立ての良さ



2. ランキング1位の項目、10位以下の項目と理由を書きましょう

1位 色・柄・デザイン	その理由 値段も素材よりも自分が入ったものをまず見るから。	近で意見交換して感じたこと みんな、たいがい同じ順位でした。ゼリが、キレイな色で色・柄・デザインが気に入る。だからと思った。
10位以下 生産国	その理由 自分が気に入る中国産の物。	既製品の種類 (スカートやズボン、下着等) 用途 (運動用、私服用等) によって重視する項目は違う!
手入れの方法	見た目が上がった方がいいから。	
仕立ての良さ	仕立てなど細かい所で気にしないから。	

3. 店舗販売、無店舗販売 (通信販売) による違いは?

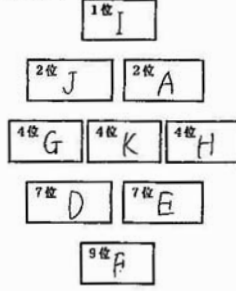
店舗販売 店舗販売は、自分の目でみたり試着が出来るので自分に合ったものを選べる。	通信販売 通信販売は、自分で試着が出来るので、色・柄・デザインは本当にいいのかわからないから。
---	--

4. 既製品を買うときの確認チェックカードを作ろう

デザインや色や柄が入ったものばかり重要。着心地やサイズや値段も次に大事だと思う。コーディネートや流行も考える。

1. 既製品 (Tシャツ) 購入時に重視する項目ランキング

- A: ブランド (メーカー)
- B: 生地質
- C: 着心地 (動きやすさ)
- D: 着用目的
- E: 手入れの方法
- F: 素材 (繊維)
- G: 縫製
- H: サイズ
- I: 色・柄・デザイン
- J: 流行
- K: コーディネート (他の服との組み合わせ)
- L: 仕立ての良さ



2. ランキング1位の項目、10位以下の項目と理由を書きましょう

1位 色柄デザイン	その理由 デザインが気に入る。自分の好きな服が欲しいから。	近で意見交換して感じたこと みんな、色柄デザイン重視の項目が多かった。絶対、デザインが一番だと思ってる。この順位と位とが合った。
10位以下 生産国	その理由 お気に入りの国とかが好きだから。	既製品の種類 (スカートやズボン、下着等) 用途 (運動用、私服用等) によって重視する項目は違う!
素材 (繊維)	素材が本が良いから。	
仕立ての良さ	お気に入りの服は仕立てが良い。	

3. 店舗販売、無店舗販売 (通信販売) による違いは?

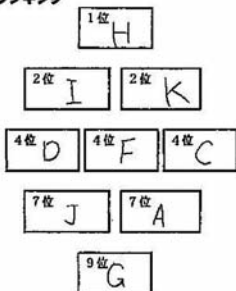
店舗販売 店舗販売は、色・柄・デザイン・素材を確認できる。	通信販売 店舗販売は、色・柄・デザイン・素材を確認できない。
----------------------------------	-----------------------------------

4. 既製品を買うときの確認チェックカードを作ろう

手入れの方法はあまり良いランキングにはなかったが、3位くらいにはいると思う。色柄デザインと柄から選ぶのはいい服だと思う。

1. 既製品 (Tシャツ) 購入時に重視する項目ランキング

- A: ブランド (メーカー)
- B: 生地質
- C: 着心地 (動きやすさ)
- D: 着用目的
- E: 手入れの方法
- F: 素材 (繊維)
- G: 縫製
- H: サイズ
- I: 色・柄・デザイン
- J: 流行
- K: コーディネート (他の服との組み合わせ)
- L: 仕立ての良さ



2. ランキング1位の項目、10位以下の項目と理由を書きましょう

1位 H	その理由 どうも自分が気に入ったものがあつたから。	近で意見交換して感じたこと 着目点から見たら、たぶんほかと違って、
10位以下 L	その理由 そこまて気にしない。	既製品の種類 (スカートやズボン、下着等) 用途 (運動用、私服用等) によって重視する項目は違う!
B	"	
E	手入れの良さは自分にとって	

3. 店舗販売、無店舗販売 (通信販売) による違いは?

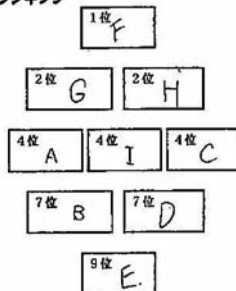
店舗販売 自分で試着して着てみて、自分に合ったものを選べる。	通信販売 通信販売は、自分で試着が出来るので、色・柄・デザインは本当にいいのかわからないから。
-----------------------------------	--

4. 既製品を買うときの確認チェックカードを作ろう

色・柄・デザインは、みんな重要視している。使用目的にてもな。素材も気にする必要はあると思う。

1. 既製品 (Tシャツ) 購入時に重視する項目ランキング

- A: ブランド (メーカー)
- B: 生地質
- C: 着心地 (動きやすさ)
- D: 着用目的
- E: 手入れの方法
- F: 素材 (繊維)
- G: 縫製
- H: サイズ
- I: 色・柄・デザイン
- J: 流行
- K: コーディネート (他の服との組み合わせ)
- L: 仕立ての良さ



2. ランキング1位の項目、10位以下の項目と理由を書きましょう

1位 F	その理由 よく着て、その素材が気に入る。硬い生地は嫌いだ。	近で意見交換して感じたこと みんな、自分が重視する項目が多かった。絶対、自分が重視する項目が多かった。
10位以下 J	その理由 流行は流行、自分自身、他の服も合わせて考えてみる。	既製品の種類 (スカートやズボン、下着等) 用途 (運動用、私服用等) によって重視する項目は違う!
K	時間が、たいてい	
L	着ては、関係ない。	

3. 店舗販売、無店舗販売 (通信販売) による違いは?

店舗販売 店舗販売は、自分で試着が出来るので、色・柄・デザインは本当にいいのかわからないから。	通信販売 通信販売は、自分で試着が出来るので、色・柄・デザインは本当にいいのかわからないから。
--	--

4. 既製品を買うときの確認チェックカードを作ろう

見た目やサイズ等の外見。重かきやすさ。自分の予算、あうかどうか。

